

令和6年度 第9回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和7年2月13日（木）午後6時30分から午後8時
- 2 開催場所 伊東市役所 8階 大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員9人
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、企画部長、杉山理事
事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 意見交換
 - (4) 閉会
- 5 意見交換概要
 - (1) 企画課長より開会
 - (2) 市長挨拶

【市長】

みなさんこんばんは、1月に引き続き未来ビジョン会議を開催させていただきました。先月のプレゼンテーションでは、素晴らしい御提案をいただきましてありがとうございます。本日は、委員の皆様一人一人としっかりと意見交換を行いまして、より実りのある会議としたいと思います。2つのグループに分けさせていただきます、今日と明日で開催いたします。本日のテーマですが、プレゼンテーションのテーマでもありました「理想の将来像実現のための手法や提案」ということになります。プレゼンテーションの内容や、ワークショップでの御意見等を踏まえ、皆様と意見交換ができればと思います。

このまちの未来を変える。変えられるのは私達であり、一人一人がこういう伊東市をつくりたいという意味を込めて、未来を描けば、本市の未来をより良く変えることができると思いますので、皆様と一丸となって、夢と希望を形にできる将来像の実現に向かっていきたいと考えております。ぜひ、本日も、忌憚のない御意見をお願いします。

(3) 意見交換

【課長】

それでは、さっそく意見交換に入ります。小野市長、お願いいたします。

【市長】

それでは、意見交換に移ります。「理想の将来像実現のための手法や提案」という視点でワークショップやプレゼンテーションをしていただきましたが、プレゼンテーションでは伝えきれなかったこと、あるいは全く別の観点から皆様とごつくばらんに意見交換をしたいと思います。それでは、最初にU委員、お願いいたします。

【U委員】

よろしくお願いいたします。私は、中小企業同友会伊東支部から参りました。アトウォーター代表のUと申します。前回、T委員から話がありましたが、防災に関して私たちは意見交換してまいりました。自分は企業を経営している身でありまして、防災に関して何ができるのかと考えたときに、平時に民間が動くことが重要であると思っております。あと、T委員からの発表にもありましたように、防災に当てはまりにくいと思いますが、「楽しく」、イベントのように実施し、やらされているという感覚ではいけないと思います。私は、もっと人を巻き込んだ方がいいと思っているので、自衛隊を呼んだり、残っている缶詰で豚汁を作ってみたり、川奈小学校のプールの水が濁ったままになっているので、今年中を目途に企業仲間とプールを清掃し災害時に使えるようにしようと思っており、周りの人たちをいかに巻き込むのかということでもあります。

また、「たっちゃんねる」に私の身内であります、オリックスの上原堆我選手なども巻き込んで防災に携わっていくのもいいと思います。楽しい要素を考えながら日々生活していきます。

【市長】

ありがとうございました。防災について御提案いただきました。やはり他力本願ではいけないと思います。自分の身は自分で守る、または会社や仲間を守るということを日ごろから考えていくことが重要であります。旧川奈小学校のプールにつきましては、後ほど教育長から御意見いただきますが、あるものを有効に使っていく、これは鉄則ですから、有志で清掃をということでしたが、一緒にできることは進めていきます。これからどんな災害がきましても、基本は自治体に災害対策本部ができます。私が本部長ということで、自衛隊や消防がきましても指揮官は私になるわけですから、日ごろからこのような情報交換をしていくことが重要であると感じております。

【岸副市長】

最初の御意見として、いい御提案、心構えでありました。私も、何事も楽しくという言葉が好きでありまして、苦しいことも何事も楽しく乗り越えようという理念がある中で、その気持ちを防災にくっつけるということがすごい視点であると思いました。特に防災は、「私は見ている人」、というのが、災害に巻き込まれやすいので、「私も動く人」と認識し、民間、行政関係なく、予防としての防災知識を伊東市民が深めていくというのはすばらしい取組だと思いますし、伊東市の防災としてもそういった取組をしていきたいと思いました。ありがとうございました。

【教育長】

御意見ありがとうございました。U委員のお話のとおり、災害時においてプールの水は大事なものであります。東日本大震災を経て、いろいろな研究がされており、市教育委員会としても、旧川奈小だけでなく旧西小学校等もありますので、連携しながら使用方法につい

て検討していけたらと思いました。はっと思うようなアイデアをいただきまして、ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、T委員お願いいたします。

【T委員】

伊豆伊東高校から参りましたTと申します。私からは危機対策に関する教育について、U委員と重複するところもありますが、話したいと思います。私の実体験ですが、中学校から高校にかけて防災訓練をやったり、防災に関する講話を受けたりしておりました。その内容はためになるものばかりなのですが、どうしても「つまらなさ」が出てきてしまい、高校1年生のときに県職員の方に講話していただいた際には、私の前後左右の生徒は寝ていました。寝ること自体は良くないことでありますが、仕方ないと思ってしまいました。そういう教育の中には、「実践的に使えるもの」と「楽しさ」の両立が必要であると感じました。前回のプレゼンテーションでも提案しましたが、年齢を超えた防災訓練を実施することについてです。高校生は仲のいい高校生同士で行動できると思いますが、高齢の方であったり小・中学生であったり、果たしてしっかりと行動できるのかというところを踏まえまして、年齢を超えた防災訓練や防災教育が必要であると思っており、やり方によっては苦しくなく、楽しくできると思います。小学生は、楽しい方がやる気も出ますし、より一層参加すると思います。

最後に、少しテーマから外れますが、私の周りの先生に、起業をしたい先生がおりまして、熱意があると思っております。このような未来ビジョン会議の場以外でも、伊東市を良くしたいと思っている人もいます。また、第1回の未来ビジョン会議の際に、小野市長からふるさと納税についての話がありました。高校生の中にも、ふるさと納税に興味を持っている人もいますので、熱意がある人たちの声を未来ビジョン会議のような様々な形で聞きながら、市政を進めていただけたらありがたいと感じます。

【市長】

ありがとうございました。訓練、特に講話は眠くなると思います。大事なことを言っているのですが、言葉が難しかったりすると、意味がわからなくて興味がなくなっていってしまうということですので、工夫をすれば、もっと楽しい講話もできると思います。

あるいは、学校の授業だけでなく、世代を超えたみんなで受けられる講話や訓練、これは地域では行っておりますが、みんなが参加したくなるような訓練について、新しく考えていかなければならないかなと感じました。

伊東を良くしたいという先生がいらっしゃるということですが、すばらしいことであると思います。私事ではありますが、24歳で起業し、苦労を重ねながら伊東市のためにやってきたという経験があるものですから、大変うれしく思います。そういう心を皆様が持っていれば、起業しなくても自分がどんなことができるかと考えていただけたら伊東市はもっと良くなると思います。

それからふるさと納税の話でしたが、目標を高くしておりまして、納税額の半分が本市の収入となります。それを皆様に使うことができるわけです。どうすれば納税しなくなるのか、みんなでアイディアを出しながら考えていくことが大事であります。4月以降の予算案も増額して出しております。引き続き、進めていきたいと考えております。

【中村副市長】

ありがとうございました。ふるさと納税につきましては、今の市長の話にもありましたように、力を入れて進めております。それは、行政だけではなく、いろいろな人の御意見を踏まえながらこれからも進めていこうと思っておりますので、高校生として思いついたアイディアがありましたら、ぜひ生かしていきたいと思います。

最初に防災教育のお話をされました。行政っていうと、どうしてもつまらないところもあるかと思います。例えば、免許更新の際に見る動画では、交通事故の悲惨さを伝えたいところもありますが、大事なことをどうやって伝えるかということが重要でありますことから、伝えられる側の御意見が分かれば、私たちとしても対策を検討することができますので、なんでも御意見いただけたらと思います。

【市長】

ありがとうございました。続いてI委員お願いいたします。

【I委員】

伊豆高原観光オフィスから参りました地域おこし協力隊のIと申します。私も移住者ですが、伊豆高原は移住されてくる方が多くて、U委員から消防団の人手が足りない、同じ団員が再入団するということを伺っております。自分の地域の住んでいる消防団の実態を初めて知りました。移住者が入りづらい雰囲気を感じる部分があつて、ただ人はどんどん少なくなっていくので、自分の命は自分で守るということを移住者にも強く持つてもらふということが大事であると思います。

伊東市公式LINEにおきまして、災害が起きた際に、現在地から避難できる場所を検索できると思いますが、避難した後、どのくらいの支援者、避難者がきて、運営をできる人がいるのかどうかかわからない状態で、その場に行っただけでは、後で問題が起こると思うので、まず自分がどう動けるのか、さきほどの話にもありましたように「楽しさ」と合わせて訓練で運営をしてみるとか、そういう経験が一度でもあるだけで、自分も動く側にまわれると強く感じております。体験でもいいので、できる場があるといいなと思います。

【市長】

ありがとうございます。消防団ですが、今は担い手がいなくて困っております。移住された方が入団することもあります。誘う方も遠慮してしまうこともあり、移住者も入団することに気を使ってしまうことがありました。そこを行政が間をとっていけたらと思いました。伊豆高原には移住者が多く来ていただいております。高齢者が多いですが、コロナ禍では、お子さんを連れたご家族で移住してくださり、今も生活していただいております。よく伊東市は、住民と移住者との間に壁があると言われますが、全くそういうことはございませ

んし、移住される方の多くは別荘分譲地にお住まいを買われたりします。伊東市には15の行政区があり、そこにそれぞれ区長がおります。毎月区長会を開催しておりまして、行政とのパイプ役を担っていただいております。一方、分譲地の方々とも定期的に意見交換しておりまして、私も年2回くらいは出席しております。私としては行政区と分譲地とで差別をなくしているつもりですが、分譲地の方々からは御意見をいただくこともあります。何かいい御提案がありましたら、教えていただけたらと思います。

最後に、避難所の話がありましたが、市職員で構成された支部員の指示に従いながら運営することになります。

【岸副市長】

御提案ありがとうございます。今、市長から話しがありましたように、避難所運営につきましては、各避難所に避難所一式BOXが設置されており、避難所近くに住んでいる支部員が従事することになっております。それから、開設準備訓練を毎年4月に行っておりますが、一番大切なのが、I委員御指摘のとおり、地域の連携が必要であり、例えばご年配の方や赤ちゃんを連れた方に配慮できるような避難所は、温かいご飯も早く手に入るという傾向もありまして、能登半島地震のときも、住民同士が助けあった方が温かいご飯の提供につながるということがありました。日頃から、近隣住民の顔が分かっているということが安心材料かなと思いました。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、I委員お願いいたします。

【I委員】

富士伊豆農協から参りましたIと申します。よろしく願いいたします。本日は観光について話をさせていただきます。伊東駅から近くに海水浴場がありますので、こういった資源を生かしながら、もっと観光客を呼び込めないのかなと感じました。夏のシーズン終わりでも暑い日が続きますが、これは伊東にとってはチャンスであると思います。お盆を過ぎたら海に入ってはいけないというのは一昔前のことであり、今は9月から10月でも海で遊んでいる方もおります。伊東の魅力である海と山、そういった資源を生かしながらオレンジビーチで行うイベントなどを開催した方がいいのかと思います。1回限りだと効果がないと思いますので、後世に残るようなイベントを民間企業と考えていく機会があれば、もっと盛り上がっていくのかと思いました。

あと、ふるさと納税について、少し話をさせてください。農協では、レモンを伊東市・熱海市で推していこうという考えをもっております。国内のレモンの8割は輸入に頼っており、国産レモンには入る余地が十分にあると考えております。農家が作ったレモンと行政がタイアップし、何かいいアイデアが作れるのではないかと考えております。農協としても、そういった際には行政にお力添えをしていただきたいと思いますので、よろしく願いします。以上です。

【市長】

ありがとうございました。観光に特化した話しでした。伊東駅と海岸は、1キロメートルもないので歩いて数分で着きます。もっと、それを長所として伸ばしていく、それはとても大事なことでと思います。これから伊東駅前の改修を行ってまいります、今の伊東駅の駅舎はそのままとし、ヤシの木があるところは、人が滞留できるエリアとなりますので、車両は通りません。提案としては、足湯を作ったかどうかとか、伊東市のシンボルとしてモニュメントを置いたらどうかとかありますが、できればイベントが開催できるような広さを確保するようにイメージしております。交番がある方に一般車両が通れるロータリーを、ヤシの木があるところから海側に公共交通のスペースを考えております。駅がさらに拡がるため、最近の御提案では、海まで直結できるスカイドームの整備についてもいただいております、どこまで実現できるかはわかりませんが、駅までの導線をしっかりと作っていくことは、I委員と同様に大事であると考えております。

オレンジビーチですが、夏は暑すぎてしまい、また、本市の砂浜は熱がたまるので、裸足では歩けなくなります。そのため、最近では海水浴のお客様も少なくなりました。I委員の御提案にあったように、9月10月でも暑いことを逆手にとり、土日を中心にイベントを考えていくことも検討していきたいと思います。

それから、ふるさと納税のお話がありました。レモンにつきましては、御組合の勝又理事からも、力を入れていくということで伺いました。市としても協力できることはしていきたいと思います。1つの提案としましては、ふるさと納税は体験型が多いため、伊東市だと宿泊とかゴルフとかありますが、一口農家としてレモンの木を提供することも面白いのかなと思いました。

【企画部長】

貴重な御意見、ありがとうございました。確かに、海に近いというのが伊東市の最大のメリットであると思います。熱海市は、駅からずっと歩いて行かないとビーチまで届かないわけですが、伊東は市長がおっしゃったように駅前広場を開発するとともに、海までの導線も整理する中で、駅に着いたらすぐに海に行けるというメリットを最大限生かし、民間企業と協同して海を活用したイベントを企画できればいいのかと思います。

レモンのお話ですが、私の同級生で御組合に勤務していた三枝さんという方がおりまして、今は鎌田でレモンに力を入れていろいろな商品を開発していると伺っておりますので、今後、伊東市のブランド品として売り出せたらと思いました。貴重な御意見ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、S委員よろしく願いいたします。

【S委員】

伊豆伊東高校のSです。よろしく願いいたします。私は、前回の発表でお伝えできなかった公園について発表いたします。私たちCグループでは、自転車の練習やボール遊びができる公園の開発について意見がでました。外で遊ぶことは、児童にとって心身の発達を促し、

非常に重要なことであります。また、保護者同士のコミュニティを広げ、地域との関わりも増えます。しかし、現在の日本では、自転車の利用やボール遊びが禁止されている公園が多いとニュースで耳にします。公園という居場所を失った児童は、家で遊ぶか他の市まで遊びにいかなくてはなりません。インターネットやゲーム機の普及が著しい現代において、外で遊ぶ機会はさらに減っていくと予測されます。そこで必要なのが、自転車を使用できたり、遊具が充実したりする公園であると感じました。余談になりますが、私が住んでいる東伊豆町は遊具のある公園がなく、児童が外で遊ぶ機会がとても少なかったです。私自身も外で遊ぶ機会が少なく、友達の家や小学校で遊ぶことが多かったです。そこで、伊東市に魅力的な公園を作っていただけたら、休日に足をのばして伊東市の公園まで遊びに行くという家族も増えると思います。いつでも、児童たちの楽しい笑い声が聞こえて、保護者同士のコミュニティが広がる、そんな魅力的な公園ができればいいなと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございました。公園についてのお話でした。自転車やボールの使用が禁止されている公園が多いということでしたが、私たちが子どものときは、そういう規制は特になかったです。今日の御意見を聞いてとても驚きました。ルールやモラルを守りながら、みんなが楽しく使用するというのが公園であると思いますが、子どもたちが賑やかに遊ぶ声を聞きたいと思っております。今は昔と違い、子どもたちだけでは遊んではいけないという保護者も多くなりましたが、そういう公園が整備されていれば、子どもたちだけで遊んでも安心であると思いました。

【教育長】

御意見ありがとうございました。始めに、先月の発表も含めて高校生のプレゼンテーションが上手であると感じました。公園の話につきましては、S委員の御意見のとおりかと思いますが、場所の問題がございます。小さいお子さんを連れてくるに当たり、駐車場を完備しなくてはならないため、どこに整備すればいいのかと考えております。また、市内には休園している幼稚園がありまして、そこはいつでも園庭を使って遊んでいいとなっております。竹の台幼稚園とか鎌田幼稚園とかいろいろありまして、遊んでいる親子もおります。ただ、駐車場がないので、どこかいい場所のアイディアがありましたら、教えていただきたいと思います。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。続いてH委員お願いいたします。

【H委員】

伊豆伊東高校のHです。よろしくお願いいたします。私は、教育の面から、特に高校での教育について御提案させていただきます。高校での出前事業等で、伊東の行政について学ぶ機会を作っていただきたいということです。私たち高校生が市役所を直接利用するという機会が少なく、そもそも市役所では何をしていて、どんな部署があるのか、知らない高校生

が多いと思います。私たちが社会に出るに当たり、そういったことに関心がないことが良くないと思っていて、より良い将来の伊東にしていけるためにも、私たちが受け身で市のサービスを受けている状態が続いていくことが良くないと思います。一方、全員が自分の住んでいる市について学ぶ機会は少ないため、そこで行政の手を借りて学んでいきたいと思っています。その授業を経て、私たちが誰にどのように支えられているのかを学ぶことができ、そこから自分たちが大人になったときに、伊東市について何ができるのかを考えていきたいです。また、行政からも高校生に対して、これからの伊東市をこういう風にしてほしいと、伝えてほしいです。

もう一つの意見になりますが、伊豆伊東高校での「みらい学」という学習の一環で様々なテーマに沿って生徒たちが探求しております。その発表会で私が感じたことは、いろいろな課題を見つける中で、アクションプランを提案し、とてもすばらしいと思いました。このアクションプランに対し、行政目線からも御意見をいただけたら、私たちの探究活動もより深みが出てくるかと思いました。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。出前授業につきましては、この後教育長から申し上げます。市役所に来る機会が少ないということでしたが、最近始めたことを申し上げますと、御家族がお亡くなりになった際の手続きが複雑であるので、これを簡略化するために、市役所4階にワンストップ窓口を作りました。午前午後1組ずつ御利用いただき、市役所職員が連動して案内していきます。我々は毎日市役所にいるので、各部署の所管は把握しておりますが、分かりやすくすることが大事であると思いました。希望を言えるような場の提供ですが、先日も伊豆伊東高校に行き、いろいろとお話しをさせていただきました、これからの課題として検討していきます。

【教育長】

御意見ありがとうございました。H委員の御意見は県の教育長も賛同すると思います。静岡県は、探究活動に力を入れておりまして、伊東市においては、企画課に御提案や御相談をしていただき、関わっているかと思っています。ぜひ、担当の先生に市役所職員に出前授業してほしいと言っていたらと思います。私を指名していただければ、私も参ります。これからは高校と連携していきたいと思っています。

高校生にお願いしたいこととしまして、20～30年後、みんなが社会を作っていくことになりますので、いい社会を作れるようにいろいろな探求をしていただきたいと思います。ありがとうございました。

【市長】

H委員ありがとうございました。それでは、T委員お願いいたします。

【T委員】

NPO法人絆翔の代表をしておりますTと申します。よろしくお願いいたします。前回では高齢者について発表しましたが、今日は子育て支援事業について発表いたします。

テーマとしては、「伊東市の人口増加を目指すために、パパとママに心の余裕を」としました。現状としては、共働きで子育てに追われている家庭が多いと感じております。収入もあがらず、物価高騰によって家計も苦しい、お金と時間に余裕がないため、個々の余裕も奪っているのではないかと考えます。パパは仕事に忙しい、ママは育児に追われ、頼る場所もない。心に余裕がなければ、ママを思いやる気持ちも、パパに感謝する気持ちも生まれないと実感しております。

解決法としては、時間とお金に余裕があれば、パパとママの心の余裕が生まれる。第3子を持つ家庭に限らず、子ども手当の増額や子育て支援の充実により、状況は変わってくると思います。私たちも、暮らしやすいまちとなるように何ができるのか考えておりますが、やはりママに心の余裕があれば、パパに優しくなれる、夫婦間が安定し仲が深まるということが、いずれ人口増加にもつながるのではないかというふうに考えました。

まとめとしまして、お金がない、働くしかなくなる、子どもとの時間が少なくなる、心に余裕がなくなる、この負のサイクルをプラスにするために、市の補助を始め、民間企業と連携しながら関われたらいいと考えました。

学童保育として始めた私たち法人ですが、いくつかの事業を受け持っております。たくさんの方に支えられて築きあげることができました。皆様に恩返しができるようにこれからも精進してまいります。前回の発表で、民間企業がクラウドファンディングを活用することの話がありましたが、今回私たち法人が挑戦することとなりました。伊東市富戸にて、眺めのいい古民家を利用し、子育て支援を始め、認知症カフェなどの世代を超えた支援ができるようにしていきたいと考えております。本会議にていろいろな方と話しをさせていただき、私自身も勉強になりました。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。法人の活動の中での話でありました。心の余裕について話されておりましたが、時間やお金に追われていると負のサイクルとなる、これは私もそういう経験があります。今はほとんど共働きで産休や育休を使いながら、子育てをされています。そんな中で、市長になったときからの子育て支援策として、5歳児の教育費無償化、18歳までの医療費無償化、中学校の部活動に対する補助、入学祝金として5万円を支給するなど、毎年実施しており、来年度は給食費の無償化を実施しますので、子育て支援策にはとても力を入れております。本市独自で行っていることであります。それほど子育て支援策に力を入れていることを、市民が理解できるようにならないといけないと思います。少子化の流れは止めていきたい、まずは経済的な支援をする必要があると思いますので、本会議の御意見を活用していきたいです。

【中村副市長】

御意見ありがとうございました。私も30数年前に子育てをしております。当時を振り返ると仕事が忙しく、家庭に費やす時間が少なかったと思います。やはり、お母さんが居心地がいい、お母さんに余裕があるということが、家庭が円満になり、安定すると思いました。

子育て支援といいますと、子どもに対する支援と思われがちですが、お母さんに対して支援をする、地域でお母さんが子育てしやすいように協力する、これが大事なかなと思います。行政として子育ての不安を払拭できるようなまちを作っていきたいと思いました。御意見ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。次にY委員お願いいたします。

【Y委員】

伊豆介護センターのYと申します。私は昨年度まで市役所高齢者福祉課で生活支援コーディネーターとして勤務しておりました。コーディネーターとして働く中で、大学の講師をお招きし、行動心理学（ナッジ理論）をテーマとしたセミナーを開催しました。例えば、避難訓練の参加者が少ないという意見がありましたが、餅つきを一緒に開催したら人がたくさん参加しました。人が集まるような行動心理を利用し、楽しさを盛り込んでいくという内容でした。

今は伊豆介護センターにありますが、そこで元気な高齢者のデイサービスを見ておると、どうしても“お世話される側”になってしまっております。元気な高齢者は、役に立ちたいという思いはありながらも、役に立つ場面がないという現状です。そこで、前回の発表で居場所の話をさせていただきました。他のグループの発表でも居場所というテーマの発表がありましたので、リーダーを育成することができれば、いろいろな人を巻き込みながら大きな輪ができるのではないかと思います。私はU委員と同じで、“楽しい”ということをキーワードで持っており、楽しさがないと継続していかないと思いますので、行動心理を利用して楽しく過ごせる場所が伊東にあればいいなと思います。高齢期になってもQOLを維持できるようになればいいと思います。本会議に出席して思うことは、テーマが一つあればみんなでつながることができるので、リーダーとなれるような人を発見して育成していくことが重要であると思いました。レモンのお話もありましたが、高齢者福祉でも連携していけることがあるのかと思いました。垣根を超えて連携していきたいです。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。人が集まる企画を考える、これは鉄則であります。私は政治家ですので、投票率をあげるということを一生懸命考えています。いい政策を作り、周知方法を考えても、あまり成果がでません。そういうときも、いい企画があれば成果が出てくると思います。民間企業と協力して進めていきたいと思っています。

また、高齢化率も45%近くになり、75歳以上の後期高齢者は26%以上おりますので、75歳以上の方が多くなっております。相当先の日本の縮図となっております。これからこの数値を下げられるよう、若い世代の人数を増やしていく、幸せに豊かな気持ちでお過ごしいただけるようにと考えており、さきほど子育て支援に力を入れていると申し上げましたが、高齢者に対しましてもタクシークーポンを支給する事業を開始します。全体が幸せでな

いと、新しく伊東に住もうという気持ちにならないかと思いますので、全体の調和を図ってまいります。

【岸副市長】

ありがとうございました。伊東市役所の中の垣根を超えたコラボレーションというのは、T委員が先駆けであります。T委員が最初に行った学童は福祉、幼稚園管理は教育委員会です。普段は交わることがないのですが、連携することができて、場所ができた、指導者が生まれた、そして居場所となった。他にもあると思います。高齢者と伊東産レモンも連携できると思いました。そういった意味では、情報が命であり、市役所内の情報を共有できるように風通しのいい職場を作ることが私の役割かなと思いました。高齢者を助けるだけでなく、高齢者も支える側にまわると前回も御提案いただき、目から鱗でした。そういったことが実現できたらと思います。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。最後にY委員お願いいたします。

【Y委員】

伊東地域包括支援センターから参りましたYと申します。よろしく願いいたします。社会福祉士として勤務しており、市内司法書士、弁護士等と連携し、「カムカム会」という定例会を実施しております。その会で議題となっているのが、身寄りなし問題です。今回、前回のプレゼンではお伝えできなかったことを言わせていただくと、身寄りなし問題を簡単に解決する方法は、お金であります。お金がないから身元保証人がいなく、施設に入所できない、入院できない、そういった人生の最期が寂しくなってしまう方が多い中で、成年後見人制度や民間の身元保証人制度を活用していくにも初期費用がかかってしまう、月々2～3万円の報酬も発生します。生活保護の境界層と言われる方々は、工面しても制度を利用できないと聞き、どうしたらいいかなと思っております。

それを防ぐためには、そうなる前にもう少しお金をためておく、稼ぐシステムを構築できれば、もう少し明るく人生の最期を迎えられるのかなと思います。具体的には、伊東市の小・中学校が廃校になっており、廃校を拠点として、荷物預かりなど、高齢者でも活躍できる場や、流木を活用したビジネス、ふるさと納税に関わる仕事などを考えていくことが大事かなと思いました。空き家、廃校利用など重複している課題を解決し、お金を稼ぐことができれば、高齢者も生きがいをもって最期まで明るく生活できるのではないかなと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございました。身寄りのない独居の方が増えてきました。身内もない方が多いのは承知しておりましたが、施設入所の際に身元保証ができないという実態を教えてくださいました。一定の費用があれば、民間の支援が受けられるということですが、市の空いている施設、校舎だけではないですが、代表的なのはシルバー人材センターがあります。そういう窓口を増やしていくことが大事であります。2, 3万円稼ごたい方が多いようです。

高齢者福祉を中心として政策に盛り込んでいきたいと思いました。

ふるさと納税につきましては、目標１０億円とし、皆様からいろいろとアイデアを出していただきまして、皆様のための事業として還元してまいります。

最後に、総評としまして、皆様の御提案の中では、しっかりと考えてご発言をいただいていたと認識しております。特に、若い層が高校生でありまして、自分たちの頃と比べてもすばらしいと思います。ぜひ、将来は地域のためになる人になっていただけたらと思います。現在、伊東市では２２年後の市制１００周年を見据えて長期ビジョンを策定しており、３月下旬にプレゼンテーションを受けます。皆様の年齢に２２年を足していただくと、ちょうどご活躍されている年代かと思います。その時に、観光客に選んでいただき、住まいにも選んでいただけるようにしていきたいと思っております。本会議を、一つの人脈として、これからも遠慮なく御意見を言っていただき、つながっていききたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、事務局から今後の運営について説明がありますので、それをもって終了とさせていただきます。

(4) 閉会

事務局から事務連絡

【市長】

今年度の未来ビジョン会議は本日で終了となります。御参加いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。１年間、本当にありがとうございました。

以 上